書　評

書籍題名：プロブレム Q&A 化学物質過敏症対策［専門医・スタッフからのアドバイス］

著者：水城まさみ、小倉英郎、乳井美和子
監修：宮田幹夫

出版社：緑風出版

ISBN978-4-8461-2015-3

発売日：2020/9/29

日本臨床環境医学会環境過敏症分科会　副代表、公立大学法人横浜市立大学　名誉教授、
財務省診療所　健康管理医、帝京大学医学部附属溝口病院　脳神経内科客員教授・脳卒中センター長、
東京都医学総合研究所　理事
黒岩義之

本書籍は化学物質過敏症（以下 CS；Chemical Sensitivity）やシックハウス症候群（以下 SHS；Sick House Syndrome）の患者、その診療に携わる医師、看護師、薬剤師などの医療従事者、患者の家族や職場同僚など、誰が読んでも分かるように工夫が凝らされた内容となっている。３名の著者はいずれも日本臨床環境医学会の会員である。国立病院機構盛岡医療センター前副院長の水城まさみ先生（本学会環境過敏症分科会　副代表）、大西病院院長の小倉英郎先生、並びにそよ風クリニック管理栄養士の乳井美和子先生が膨大な臨床経験や研究成果をコンパクトに集約した内容となっている。重要な知識や情報が Q&A 方式でわかりやすく紹介され、最終的にそよ風クリニック院長の宮田幹夫先生が全体の原稿を監修している。本書籍の章立てとその概要は以下のとおりである。

はじめに
日本の化学物質過敏症のこれまで
（CS の臨床と研究のはじまりから未来についての提言が述べられている）
Ⅰ　化学物質過敏症、シックハウス症候群とは
（CS、SHS の定義について述べられている）
Ⅱ　化学物質過敏症、シックハウス症候群の診断は
（CS、SHS の病態、診断について述べられている）
Ⅲ　各科の対応（内科一般、アレルギー科、精神科・心療内科、整形外科、歯科）
（患者が受診したときに各科で対応する際の留意点についても具体的に書かれている）
Ⅳ　患者さんへの助言と、療養指導について
Ⅴ　診断書や意見書について
（一般診断書、労災認定のための意見書、障害年金診断書、訴訟の際の意見書等の書き方について、具体例を基に詳細に記載されている）
Ⅵ　資料（QEESI 問診票、障害年金診断書、障害年金の請求にかかる紹介について）
おわりに

本書籍では環境過敏症の代表的な疾患（症候群）であるCSとSHSについて、診断と治療の方法が具体的かつ詳細に記述され、内科一般・アレルギー科・精神科・心療内科・整形外科・歯科の各科別に適切な対処方法が示されている。CSやSHSに詳しい専門医は少ないので、そうでない医師にとって有益な必携の書籍である。望ましい食事についても多くのページを割いて解説されており、すぐに役立つ日常生活面の情報が満載されている。義務教育（小・中学校）の生徒がCS患者である場合、学校の教師や事務サイドのスタッフが当該生徒とどのように接すればよいか、どのような生活指導、食事指導、アドバイスをしたらよいかの指針も記述されている。水城まさみ先生が解剖学実習用のホルムアルデヒドによるCSの課題解決に携わった経験が、CSの診療や研究に取り組むきっかけとなったというエピソードは興味深い。水城まさみ先生は1996年に新たに開設された学生の健康管理などを行う大分医科大学保健管理センターの講師として実質的な責任者を任された。学生の健康管理をする中で、人体解剖実習を行った後で眼や喉の刺激感、皮膚の痒み、全身倦怠感や下痢、発熱などの症状で保健管理センターを受診する学生が目立つようになり、大学からその原因を究明して欲しいとの依頼を受けた。解剖体の防腐処理に用いられるホルムアルデヒドとの関連を疑い、健康調査や血液検査、解剖実習室におけるホルムアルデヒド濃度の測定など、科学的調査を行った結果、実習室内のホルムアルデヒド濃度が作業環境基準値を超えていて、またホルムアルデヒドに曝露されると80～90％以上の学生に何らかの身体症状が発現することが判明した。これを機に解剖実習室の換気システムが改善され、実習後に体調不良を訴える学生が激減した。このように大学の期待に応えてCSを有効に予防する対策を講じることができたという喜びと感動、そして著者らの熱い情熱がこの書籍を完成した原動エネルギーとなったことは間違いない。この書籍はCS患者の診断、治療に関して科学的に記述しただけにとどまらず、一般国民がCS患者の苦しみを知り、それを軽減する社会にするにはどうしたらいいかについても論じていることは特筆に値する。第一著者の水城まさみ先生は2020年９月３日に72歳で死去され、９月29日に出版された本書籍が遺作となった。水城先生は死去される数日前まで校正作業に没頭していたが、９月３日以降、校正作業を継続していただいたご遺族に謝意を表したい。